

令和二年度 学校関係者評価報告書

愛媛県立三間高等学校
学校番号(43)

評価実施日		令和3年2月17日(水)	
委員	氏名	所属等	備考
	稲田 司	司法書士	
	大野 久美	元宇和島市立三間公民館運営審議委員	
	渡辺 吉男	道の駅みま 出荷部会長	
	森藤 裕子	宇和島市立三間公民館長	
	樋口 宏治	吉田三間商工会議所副会長	
	山田 慎一	三間高等学校PTA会長	
	渡邊 直宣	宇和島市立三間中学校教頭	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (学校評価アンケートを踏まえて)	
(1) 学校経営について 生徒一人一人のよさを見つめぬばす教育の実践を行っている。コスモスデー(自由服登校)の実施や全国募集など、三間高校としての特色を出す活動を更に推進してほしい。少人数であることを強みにして、地域にないではない高校として積極的に魅力をアピールしてほしい。	来年度から、本校は北宇和高等学校三間分校となる。三間高等学校が、三間分校となることは残念であるが、今後も、生徒一人一人のよさを見つめぬばす教育を実践していきたい。教科活動や地域に根差した活動などで、北宇和高等学校と連携、協力していくことで、三間分校としての魅力を更に高めていきたい。
(2) 教科指導について 多様な習熟度の生徒に対応するために、学習支援員や補助教員を配置するなど、きめ細かな指導を行っている。例年同様、学習習慣の定着や定期考査に向けての学習が十分でないと考えている生徒や保護者が多くなっている。	年度当初に、コロナウイルス感染症のために臨時休業や分散登校が実施され、特に一年生の学習習慣が定着しにくかった。臨時休業や分散登校などにも対応できるように、現在行っているICT研修を継続して、教職員のICT技術の向上を図っていききたい。
(3) 生徒指導について 三間高校の生徒は、校内ではもちろん校外でも声を掛けると気持ちの良い挨拶で答えてくれる。校外で自ら進んで挨拶ができるようになれば更によくなるのではないかと。今年度前半は、コロナウイルス感染症の影響で、十分な校外活動が行えなかったが、三間高校が地域に果たす役割や地域からの期待は大きい。今後も地域と連携した活動を積極的に行ってほしい。	今年度はJRのダイヤ改正で生徒による朝のあいさつ運動を行うことが困難となり、正門で教職員による朝の声掛けを行った。積極的に挨拶ができるよう、これからも働きかけを継続していきたい。来年度もコロナウイルス感染症の影響で、地域との連携やボランティア活動が制限される可能性もあるが、通信アプリを活用したリモートの活動にも積極的に取り組んでいきたい。
(4) 進路指導について 進学も就職も生徒の進路希望実現のために丁寧な指導が行われている。三間町も高齢化が進み、このままでは過疎化が一層深刻になる。高校在学中に地域との交流活動を通して、地域の良さを認識し、将来三間地域に就職し、地域を支え、地域の発展に貢献できる高校生を育成してほしい。	本校では例年、地元企業への就職をする生徒が多くなっている。離職する場合もあるが、大部分の生徒は、地元で再就職し地元を支える存在となっている。これからも、就業体験などの実践的なキャリア教育を充実させ、早期離職者を減らし、地域に貢献する生徒を育成できるよう、きめ細かな指導を行っていききたい。
(5) 人権教育について 学校評価アンケートの結果を見ると、入学してよかったという生徒の評価が昨年と比べて上がっているが、保護者の評価が下がっている。これは、中学校でも同様の傾向がみられ、授業参観や学校行事が、コロナウイルス感染症の影響で中止や規模を縮小しての実施となり、保護者と交流する機会が減少したことが原因ではないか。	生徒一人一人を見つめぬばす教育の実践を今後も継続していきたい。一・二学期の人権・同和教育ホームルーム活動は、例年一般公開を行っているが、一学期はコロナウイルス感染症の影響で公開を見送った。(三学期も、保護者への公開を見送った。)活動の様子をカメラで撮影し、公開するなど、このような状況でも、保護者や地域の方々に学校の活動を伝えることができる方法を構築したい。
(6) 特別支援教育について 多様な生徒のニーズに対応した支援体制がとられている。今年度から実施された通級指導については、長期休業中に就業体験学習を取り入れるなど、普段の自立活動の成果を見るための工夫がなされている。多様な生徒に対応できることを、三間高校の魅力として積極的にアピールしてほしい。	来年度以降も、支援を必要とする生徒は増加していく可能性が高い。これまで行っている学習支援員や授業補助教員による学習支援を継続し、生徒一人一人のニーズに対応したきめ細かな指導を行いたい。通級指導を希望する生徒も増加することが考えられるので、通級指導を行う方法についても、より効果が高まるように工夫していきたい。
(7) 学校安全と防災について 高校生に防災士の資格を取得させる取組はすばらしい。豪雨や地震などの災害においては、高校生は地域から守られる存在ではなく、地域を守る存在となる。これからの防災教育に力を入れてほしい。	今年度愛媛県の学校安全優良学校に選ばれた。これまでの、防災訓練や特色ある防災行事、高校生防災士の養成など、高校生の防災意識を高めるための特色ある活動が評価されたものと思われる。これからの、防災教育を積極的に推進していきたい。
2 来年度の学校運営への提言 来年度から、三間高等学校が北宇和高等学校三間分校になることは残念だが、今後も地域に根差した地道な活動を継続し、積極的に情報発信をしてほしい。小規模校であることを強みとして、大規模校にはできない、三間高校独自の特色ある取組を今後も積極的に行ってほしい。	来年度、北宇和高等学校の分校となることで、本校と分校との交流を積極的に行いたい。具体的には、農業科間の相互交流や地域との交流活動における協力など、分校になることで更に三間分校の魅力をアップさせたい。全国募集のPRや中学校説明会においても、通信アプリを用いたリモートでの開催など、情報発信の方法を多様化したい。